

# bungaku sanpo



16

th

tsuchiya seminar

武蔵野大学

## 目次

- 一、カラフル  
ただいま、サヨナラした世界。———3
- 二、竹取物語  
誰も知らないかぐや姫———13
- 三、嫌われ松子の一生  
みんな大好き、嫌われ松子。———23
- 四、まほろ駅前多田便利軒  
前途多難、何処へ行く？———33
- 五、編集後記———43
- 六、制作———44





ただいま、  
サヨナラした世界。

## はじめに

私たちは  
日本文学を題材とした映画の舞台を巡り、  
旅をしました。

これが『文学散歩』です。  
今回はその旅の記録を紹介します。

文学と映像が織り成す世界を  
どうぞお楽しみください。



佐野唱子  
cv. 宮崎あおい



桑原ひろか  
cv. 南明奈



プラプラ  
cv. まいける



小林真<sup>まこと</sup>  
cv. 富澤風斗

「小林くんはいつも一番深いところを見つめてた。」

「ひろか変なの。頭おかしいの。狂ってるの。」

「おめでとうございます！ あなたは抽選に当たりました！」

「ぼくは、生きてます。」

真の才能は、早稲田大学で認められた。彼は、自分の世界を、誰にも見せたくはない。

2年生の真は、誰かの手助けを待たずに、自分の道を歩きたい。

『ぼく』の人生は、天使の翼を失った。だが、それは、彼が描いた物語の始まり。

殺人事件の現場で、小林真は、自分の過去と向き合ふことになる。

このようにみんな明るい色だけでなく、暗い色も持っているのです。

あなたはどんな色を持っていますか？

● あらすじ

そんな問いに答えるために紹介したい作品があります。それは森絵都『カラフル』です。ここでは小説と映画、二つの『カラフル』に触れて自分の色について探ってみましょう。

● 森絵都と小説『カラフル』

一九六八年東京都生まれ。一九九〇年『リズム』で講談社児童文学新人賞を受賞しデビュー。一九九九年『カラフル』で産経児童出版文化賞を受賞。中高生をターゲットにした児童文学を多く執筆。

● 映画『カラフル』

映画『カラフル』は森絵都の小説『カラフル』を原作とし、二〇一〇年に映画化。監督は原恵一。話の流れやラストシーンはほぼ一緒だが、原作とは違う箇所がいくつかみられる。

生前何らかの罪を犯したことで、輪廻転生のサイクルから外れ転生が出来なくなった『ぼく』の魂。しかし、転生のチャンスに抽選で当選し、自殺した「小林真」の体で憑依、そして小林家にホームステイすることに。転生する条件は、「自分が生前犯した罪を思い出すこと」。

小林真は美術部に所属していたため、『ぼく』は放課後に美術室へ行くようになる。そこで出会ったのが、小林真の憧れの相手である「桑原ひろか」、そして地味なクラスメイト「佐野唱子」だった。彼女たちや両親、クラスメイトとの交流の中で、『ぼく』は自分の人生について見つめなおすようになっていった。

〈どうせ死んでいるのだから〉という主人公の行動は、周囲の人々にも影響を及ぼす。そして、次第に、本当に小林真としての意思を持つようになった『ぼく』は、生前の記憶を取り戻し、自らが犯した罪を思い出すのだった。

## ● 本当の自分は何色？

キャンパスいっぱい塗りに塗りたくられた青。その右上に浮かぶ馬はまだ描きかけで印象が薄く、今の時点ではまるで青が主役に見える。

皆さんはこの小説の一節からどんな絵を想像しますか？ 映画では次のように色付けされました。



真が描いたこの絵を、ひろかは「広くて、透きとおって、からんからんの空みたい」と言っているのに対し、唱子は「空飛ぶ馬もすてきだけど、あたしにはどうして、もこれ、海で泳いでる馬に見えちゃう。深くて静かな海の底にいるの。ゆっくり水面をめざしてる」と言っています。真は唱子と同じように感じています。先ほど紹介したように、ひろかは明るく誰とでも仲良くできる空を飛ぶ馬のように自由な存在ですが、唱子と真は似た者同

士でクラスに馴染めない暗い存在です。ふたりにとって深く静かな海の底から光のある水面を目指して這い上がる馬のような存在に見えるのではないのでしょうか。同じ絵を見ても感じる色は人それぞれです。

唱子は真の変化に気付きます。そして最後に唱子は「小林くんはもともとこっちの世界の男の子だったんだよ。みんなとおなじ、ふつうの子だった。でも、あたしとか、みんなが勝手にあっちの世界に閉じ込めちゃって……。もしかしたら小林くんも、あっちの世界の方が居心地よかったのかもしれない。だけど突然、なにがあったのか知らないけど、こっちの世界に戻ってこれた。もとの姿に、もどれたんだよね」と言います。「あっちの世界」は青い馬の絵でいう海の中で、「こっちの世界」は陸の上です。以前の真は海の中を泳ぐ馬でしたが、今の真は陸の上を走れる普通の馬になれたと考えられます。

また、ひろかは絵を黒い絵の具で塗り潰そうとする場面（「うんとやさしいひろかと、うんと意地悪なひろかがいるの」と言い、自分が矛盾だらけで頭がおかしい存在だとします。一見煌びやかな女の子に見えるひろかですが、くすんだ色も抱えているのですね。

この世があまりにもカラフルだから、ぼくらはいつも迷ってる。

どれも本当の色だかわからなくて、どれも自分の色だかわからなくて。

真が描いた青い馬の絵は、海の中か空の上かはわかりませんが、迷いながらも光に向かって本当の自分の色を見つけ出そうとする絵なのではないでしょうか。

## ● 監督が描く世界

原恵一監督は、映画『カラフル』を製作する際に次のような事を意識したそうです。



○ファンタジー作品で、しかもアニメなので、いくらでも飛躍（した表現）は出来たと思う。だが、あえてそういうことをしないで、実写みたいな感覚で作ろうと思った。

○アニメの得意な要素をどどん封印してやっていこうと思った。必要のない盛り上げはしない。

確かに映画『カラフル』の世界では、キャラクターの姿や背景には現実から飛躍した色彩表現は見られませんが、むしろ、地味な容姿、色使い、タッチで描かれています。

監督はそれを「実写みたいな感覚」と言っています。本当にそうなのでしょうか？

私たちは、映画『カラフル』の舞台二子玉川へと、調査のための文学散歩に出かけました！ 東急田園都市線と大井町線の乗り入れる駅で、大きな賑わいがありました。駅の構内は明るく清潔感のある雰囲気、街は白色調の中で木々の緑が印象的でした。

街の風景のカットが多く登場する場面がよいだろうと考えた私たちは、援助交際の現場を目撃した真が思わずひろかの手を取り、雨の中を走るシーンをピックアップしました。

その道順をまとめ、真とひろかになったつもりで実際に走ってみました！

# 走ってみた

援助交際の現場を目撃した真が思わずひろかの手を取り、雨の中を走るシーン。その道順をまとめ、実際に走ってみました。

## ⑥丸子川沿い



東京都  
世田谷区 玉川  
4丁目

## ①某ビジネスホテル



## ⑤



## GOAL

## ⑧瀬田アートトンネル



東京都 世田谷区 瀬田

## ⑦逍遙橋



東京都 世田谷区 玉川 4丁目

## START

## ④



## ③二子玉川駅



## ②



東京都  
世田谷区 玉川

## ● 開発によって変わる街の色

いかがでしたか？

みてきたように、映画『カラフル』の世界では現実の街の色味を忠実に再現していました。映画『カラフル』は、小説『カラフル』にリアルな着色を加えて映像化した作品です。しかし、監督が参照したであろう風景を追跡したところ、どうしても特定できない場所が残りました。モデルのある場所とない場所が混在しているのはどうしてなのでしょう。

その原因を探ると、二子玉川の開発の歴史に行き着きました。映画『カラフル』が上映されたのは二〇一〇年です。実はその二〇一〇年には、二子玉川駅周辺で大規模な開発工事が開始されています。二子玉川公園に続く街に、商業施設やオフィス、住宅地をレイアウトし、「二子玉ライズ」という新しい駅が建設されました。

映画をよく見ると気が付くのですが、劇中の二子玉川駅周辺にはフェンスが目立ち、工事中であることがわかります。この工事の絵こそ、未来の二子玉ライズ開発を象徴し、またこの映画がいかにも現実を意識して製作された映画であることを示すのではないのでしょうか。



※上・映画『カラフル』より/  
フェンスの目立つ二子玉川駅  
※下・現在の二子玉川駅

そもそも二子玉川は、原恵一監督がこの近辺に当時住んでいたため舞台に選ばれたそうです。工事が始まった二〇一〇年の二子玉川駅周辺の風景が、監督の映画製作のリアルタイムな日常にあったという事は、間違いのないでしょう。

真とひろかが走った経路は、駅をぐるっと一周するようなコースになっていました。足を運んで実感しましたが、二〇一八年現在もホテルのある方面は開発が進んでおらず、反対に、駅を通り過ぎてトンネルへ向かう街並みは開発が完了（二〇一五年）していました。

つまり、開発されている区域とされていない区域でその街並みの変化には大きな差異が生じ、映画の通りの風景と異なっただと考えられます。

## ● “カラフル”な世界

誰もが過ごしているどこにでもある世界。映画『カラフル』は、身の周りのありふれた日常のひとコマを、現実と同じに見える色彩で描いています。映画を見る私たちの世界と近い距離にある世界を作ることによって、登場人物たちの繊細な歪みに私たちは違和感やひっかかりを覚え、共感します。そうしていつの間にか映画に惹きつけられてゆくのです。

「あらすじ」でも紹介したキャラクターたちの持つ色馬の絵についての見解の違いからも分かるように、『カラフル』に登場する人々は、様々な思いや悩みを持っています。それを見ている私たちもきっと同じなのではないでしょうか。「カラフル」という言葉からは、明るい色ばかりがイメージされがちですが、暗い色・くすんだ色・不透明な色も含めたすべての色が「カラフル」なのです。

この世界の誰もがみんな、色とりどりの思いを抱えながら生きている。この作品に触れると、そんな風に思えてきませんか？

## ● おわりに

映画のラストシーン、プラプラは真にこう話します。

人間は一色じゃなくいろんな色を持っている。  
本当の色、自分の色なんて誰にもわからない。  
カラフルでいいんです。

作品名である『カラフル』は、人生そのものを指しているのではないのでしょうか。嬉しき、悲しき、愛しき、悔しき、全ての出来事が人生を色鮮やかに、「カラフル」にするのです。

この作品をきっかけに、自分の新しい色を探してみたいかがですか？

## ● 参考文献

森絵都『カラフル』二〇〇七年 文藝春秋

『カラフル』DVD付属パンフレット 二〇一〇年 株式会社アニメプレックス

二子玉ライズ公式サイト <http://www.rise.sc/mhatsrise/plan/>

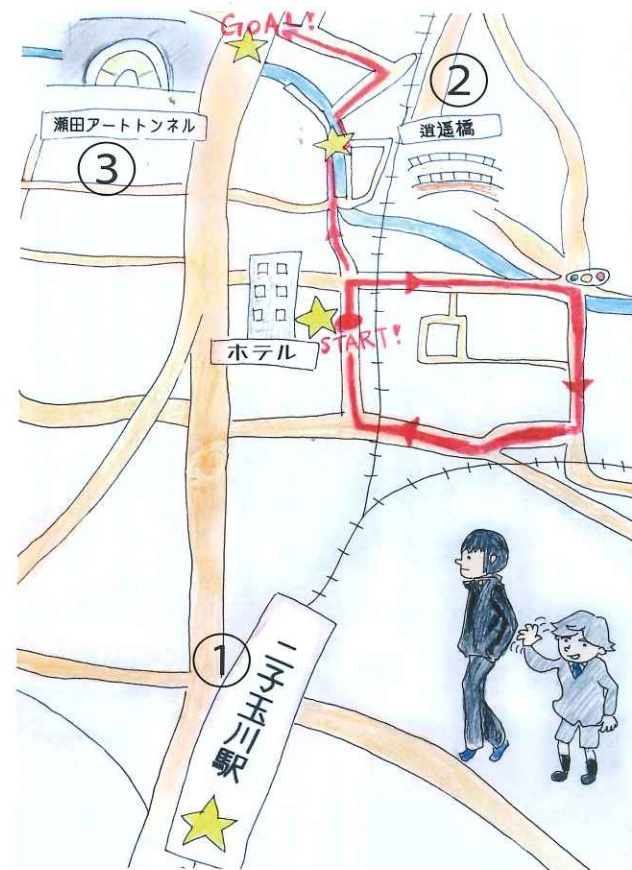
東京国際映画祭公式HP「原恵一監督 アニメと実写の垣根を越える柔軟な製作姿勢 根底にある「山田太一イズム」『カラフル』」  
<http://2017.tiff-jp.net/news/ja/?p=47184>

# かぐや姫 の物語

高畑勲監督作品

誰も知らないかぐや姫

## 『カラフル』文学散歩 MAP



①二子玉駅

〒158-0094

東京都世田谷区玉川

②逍遥橋

〒158-0094

東京都世田谷区玉川4丁目

③瀬田アートトンネル

〒158-0095

東京都世田谷区瀬田





わが名は、なよたけの「かぐや姫」。  
かの『源氏物語』にて「物語の出で来始めの祖」と言われし『竹取物語』のヒロインです。

平成の世もまさに終わらんとする今、切に「物語」が求められているとのこと。その求めに応ずべく、「月の羽衣」の呪縛を解き、地球に降り立ちました。

まもなくわらは四人の大学生の力を拝借し、今様の言葉を学びました。習いたての現代語にて自身のことをふりかえりながら『竹取物語』の世界をお届け致しますので、どうぞ最後までおつきあいください。

## ▼『竹取物語』

さて、皆さんは『竹取物語』をご存知でしょうか？『竹取物語』とは、平安初期に作成されたといわれる成立年、作者未詳の物語なんです。まずは簡単に、おおまかな物語の流れを紹介しておきますね。

竹取の翁が竹の中から光り輝く赤子を授かり、「かぐや姫」と名付けた。彼女はとても美人になり、五人の皇子から求婚され、ついには帝からも求婚を受ける。しかし彼女は自分が月の住人であるということ、月へ帰らなければならぬことを明かした。とうとう、十五夜に月の使者が迎えにきて、天の羽衣を着させられ人の心をなくした彼女は月に帰っていく。帝は一番天に近い富士の山で不死の薬を焼かせた……

## ▼映画『かぐや姫の物語』

皆さんは二〇一三年に公開された映画『かぐや姫の物語』をご覧になりましたか？とつても面白かったですね。

高畑勲監督（一九三五年十月二十九日～二〇一八年四月五日）はこの映画でアヌシー国際アニメーション映画祭名誉功労賞を受賞しました。他の代表作に『火垂るの墓』、『おもひでぼろぼろ』などがあるそうです。

## ▼「富士山縁起」

竹の翁が竹から女子を見つけた。その女子は美しく育ち、神々しい光に身体が包まれていることから「赫夜姫」と呼ばれた。その美しさは帝の后探しに来た使者にも目が留まるほどだった。

しかし、彼女は帝の后にはならず、富士山の山頂のほら穴に帰ると伝え、帰った。彼女の正体は、人々を救うためにあらわれた富士山の神様だった。それから、彼女の導きにより、男性は頂上まで、女性は中宮まで登ることが出来るようになった。また、彼女を后としたい帝は富士山と一緒に暮らすことにした。

この『かぐや姫の物語』はわたしの罪と罰を中心とした物語となっております。そして、『竹取物語』とは違った描写が多くあるのです。例えば帝との接し方だったり、捨て丸兄ちゃんという方が出演したり……さらには、わたしが地球を訪れた月の住人であることが、より強調されているんですよ。ですが、帝が薬を焼かせた最後の富士山の描写が無くなってしまったのは残念でした。

とはいえ、どうして『竹取物語』には登場した富士山が映画では登場しなくなったのでしょうか？  
四人に頼んで富士山とわたしの関連性を調べてもらうことにしました。

すると、調べていくうちに、**彼らはもう一人のわたしと出会ったとのこと。**



↑『富士山大縁起』  
元禄10年  
六所家旧蔵資料 画1

「富士山縁起」は、今もなお研究されている作品なんだそうですよ。

『竹取物語』『かぐや姫の物語』『富士山縁起』の三作品は、**全て富士山の扱い方が違う**ようですね。どうしてでしょうか？

四人が集めてくれた資料を基に、わたしなりに順を追って考えてみることにしましょう。

### ▼発見！富士山のわたし 「富士山縁起」

先にご紹介した「富士山縁起」は、題名のとおり富士山を主役としています。ちなみにわたしは、その富士山の神様でもあるんです。

「富士山縁起」で重要なのはわたしの正体が**富士山の神様**であって、富士山に帰らなければならぬこと。山の頂上は神の領域で、普通の人は入ることができません。ですが、帝は山の頂上に登れたんです。どうして、帝は人間なのに登れたのかしら？

### ①わたし、かぐや姫が自然を好む描写

宮中での生活は最初はとも新鮮で楽しかったのですが……山育ちのわたしには、宮中の生活は窮屈で、次第に嫌になってしまったんです。

成人の宴会に来ていた男たちが無理やりわたしを一目見ようと近づいてきた時に、たまりかねて山に逃げこんでしまいました。ですが、山はわたしにとって、**とても心が安らぐ場所**でした。

### ②「タケノコ」と呼ばれる成長物語

お父様（翁）にとって、わたしは高貴な存在のようであって、こんなわたしのことをヒメと呼びました。その中でも捨て丸兄ちゃん達は、成長が早い少し変わった子供「タケノコ」と呼びました。そう呼んでくれたおかげで周りの人達と変わらないように思うことができました。ですが、わたしは他の人達との成長の差がどんどんかけ離れていき、身分も急に高くなり……わたしが月の住人であることが際立っていくのです。

もしかしたら、帝が天照大御神の血を引いた神の子だったからかもしれませんね。

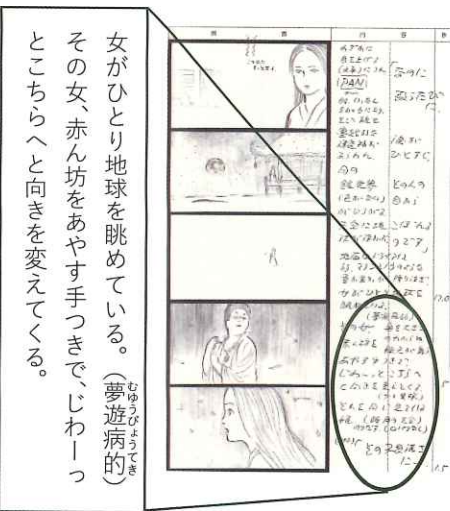
だとすると富士山に皆さんが入れるようになったのは、富士山の神であるわたしと神の血をひく人間（帝）が一緒になったからでしょう。

かつて、富士山は噴火することから人々に恐れられていました。ですが、わたしと帝の結びつきにより、**富士山は親しみを感じられる神聖なものへと変わることができた**のです。

### ▼消えた、富士山の謎 映画『かぐや姫の物語』

映画『かぐや姫の物語』は「かぐや姫の罪と罰」と題した成長物語となっています。富士山が描かれていないことについて、気になったところから考えてみましょう。

### ③かぐや姫の地球への憧れ



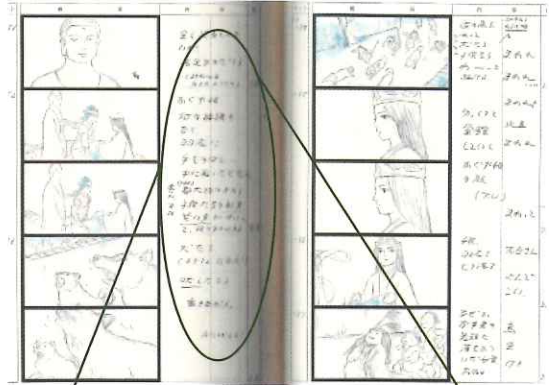
女がひとり地球を眺めている。**(夢遊病的)**  
その女、赤ん坊をあやす手つきで、じわーっとこちらへと向きを変えてくる。

絵コンテを見ると、わたしが月で出会った女性には（赤ん坊をあやす手つき）という指示があったのですね。彼女はわたしより遠い昔にこの地に降り立ったことがあるようで、手つきから彼女の地球への未練が感じられますね。

「月の羽衣」を着ると、地球にいた記憶を全て失ってしまうのに、彼女は歌うたびに涙がひとすじ。わたしはそれを見て、地球に憧れました。**この憧れこそがわたしの罪**でした。

画2

④ 月と地球との区別の明確化



画2

かぐや姫。なんの躊躇もなく、羽衣に手をのばし(中略)犬たち。(もちろん日本犬)吠えさせる

最後に、月の音楽が聞こえてきて、わたしが躊躇なく月に帰ろうとする場面をみていきましょう。わたしが吠えます。犬の吠え声は自然の象徴。地球の自然がわたしを止めているのだと思います。



画3

そうそう、月の使者は仏の姿をしていますね。月は仏のように悟りを開いた者がたどり着ける静粛な場所。怒りも悲しみもその他の感情だつてありません。ですから、月の住人にとっては心を乱されて生きる地球は未熟で穢れた星であり、その地球への憧れは罪となるのです。ですが、感情がない世界なんて退屈だとは思いませんか？地球の人は悲しみや喜び、怒りなどの感情を持っています。ああ、感情があるって、なんと素晴らしいことでしょう！また、感情豊かな人たちのいる地球のなんと美しいことでしょう！

▼これが本家だ 『竹取物語』

高畑監督は、次のようにもおっしゃっていました。

実は『竹取物語』って、読んでもよくわからないんですよ、かぐや姫という人物が。(中略)みんな知っているけれど、原作をちゃんと読んでみて素晴らしかったという人はあまりいない。

注2

『竹取物語』を読んで素晴らしいと言う人があまりいないとおっしゃるのです。そこで、今一度『竹取物語』の素晴らしさを富士山の場面から探していきましょう。

『竹取物語』では月を単にわたしの故郷として捉えています。そして富士山はわたしが故郷に帰った後に登場するんです。その場面を載せておきますね。

映画全体を振り返ってみましょう。この映画はわたしの人生を中心としながら、月と地球の区別を明確にし、地球の自然の素晴らしさを映し出しているのです。ですが、自然を映し出しているのにどうして富士山が無くなったのでしょうか。富士山の描写は『竹取物語』における天(月)に近い山にあるということから月を連想させてしまう恐れがあります。もしかしたら、その恐れを避けるために『かぐや姫の物語』では富士山の描写がされなくなったのかもしれないですね。わたしは『かぐや姫の物語』について高畑監督のある言葉を発見しました。

月は清浄無垢な世界かもしれないが、地上の草木花という満ち溢れる自然の生命や人間の情感がない。だから、かぐや姫が地球に憧れる。

注1

高畑監督はわたしの視点でみることで、月にはない自然の美しさや人の心の揺れ動きが表されるとおっしゃっています。富士山の描写がない理由については説明されていませんが、ここにヒントがあるのかもしれないですね。



- 一、知らない土地だと、迷子になります。
- 二、事前準備を入念に。
- 三、疲れたら、リッチにタクシーで行きましょう。

### ▼これから文学散歩に 行く人へアドバイス

それぞれの「富士山」の扱われ方。また、わたしの違った一面も少しお見せできたでしょうか？ よかったら、それぞれの作品のわたしに会いにいらしてくださいね。久しぶりの地球、とても刺激的でした。次の年号でもどうか忘れないでくださいね。

大臣・上達部かんたらく召して、「いづれの山か天に近き」と問はせ給ふに、ある人奏す、「駿河すまがの国にあるなる山なむ、この都も近く、天も近く侍る」と奏す。(中略)駿河の国にある山の頂に持てつくべき由、仰せ給ふ。嶺にてすべきやう教へさせ給ふ。御文、不死の薬の壺並べて、火をつけて燃やすべき由、仰せ給ふ。その由承りて、士つねどもあまた具して山へ登りけるよりなむ、その山を「富士の山」とは名づけける。注3

もし『竹取物語』がただのおとぎ話であれば、富士山なくとも帝自身が何かしらの方法で月まで会いに来てくださりそうなもの。ですが、富士山を出すことでおとぎ話の中にも現実味が生まれて、おとぎ話と現実性が共存する素晴らしい作品になっているんですよ。だからこそ、『竹取物語』は「物語の出で来始めの祖」として今も語り継がれているのです。

### ▼わたしに会いに来てください

#### 【富士山の描写の変化】

##### ・「富士山縁起」ふじさんてんぎ

噴火していたために恐れられていたものから、親しみを感じられる神聖なものへ

##### ・「かぐや姫の物語」

地球の自然というよりも、月の要素が強くなってしまふことかなくなる

##### ・『竹取物語』

不死の山+富士が富む山と表現され、物語にリアリティを与える

- 注1. 高畑勲/宮崎駿/鈴木敏夫「スタジオジブリ30年目の初鼎談 宮さん、もう一度撮ればいいじゃない」(『文藝春秋』二〇一四)
- 注2. 文春文庫編『ジブリの教科書19 かぐや姫の物語』(文藝春秋、二〇一八)
- 注3. 佐藤昭編、田辺聖子訳『竹取物語』(株式会社学習研究社、一九八八)
- 画1. 富士市立博物館所蔵『富士山大縁起』(元禄一〇、六所家旧蔵資料)
- 画2. 高畑勲他『スタジオジブリ絵コンテ全集20 かぐや姫の物語』(スタジオジブリ、二〇一三)
- 画3. 高畑勲『徳間アニメ絵本34 かぐや姫の物語』(徳間書店、二〇一四)

### ▼参考文献

- ・富士市立博物館『富士山縁起の世界―赫夜姫・愛鷹・犬飼―』(富士市立博物館、二〇一〇)
- ・富士市立博物館『富士山かぐや姫ミュージアム 常設展示総合ガイドブック』(富士市立博物館、二〇一七)
- ・高畑勲監督『かぐや姫の物語』(東宝株式会社、畑事務所、二〇一三)



みんな大好き  
嫌われ松子。

# 『竹取物語』文学散歩 MAP



①竹採公園

〒 417-0847

静岡県富士市比奈 2085-4

②東図書館

〒 417-0847

静岡県富士市比奈 1447-1

③富士山かぐや姫ミュージアム

〒 417-0061

静岡県富士市伝法 66-2

Special Thanks

富士市役所

## ▼「あらすじ」

### ▼小説

大学生の川尻笙のもとに突然父が現れ、三十年以上前に失踪した松子という伯母の存在とその松子が殺されたことを告げる。笙は、彼女の明日香と共に、父に頼まれた松子の部屋の後始末を行うことになり、松子の知られざる一生について調べ始める。

松子の一生を追いかけていた笙は、転落し続ける人生の中で松子は松子なりに小さな幸せを掴もうと奮闘していたことに気付く。そして松子のことを他人だと思っていた笙の気持ちに変化が……。

## 著者 山田宗樹 むねき

一九六五年、愛知県生まれ。作家。九十八年『直線の死角』で第十八回横溝正史賞（現・横溝正史ミステリー大賞）を受賞。二〇一三年『百年法』で第六十六回日本推理作家協会賞を受賞。

## ▼「松子」との出会い

作品を出す三年前に、突如『嫌われ松子の一生』というタイトルと共に、松子の人生の物語の着想が降りてきたという。著者自身ふざけたタイトルだと思ったが、とにかく新作を出して嬉しかったようだ。

もともと著者は、松子をリアルな女性として描きたいと考えていた。しかし、読者に松子の存在が予想以上にリアルに受けとめられ、松子の実存するかのような錯覚を引き起こさせたことにより、著者自身の中にも松子の実存する一人の女性として刻まれていった。



### ▼映画

恋人にフラれて自暴自棄になっていた笙のもとに父が突然現れ、松子という伯母の存在とその松子が殺されたことを告げる。松子の部屋の後始末を頼まれた笙は、しぶしぶ掃除をするが奇妙な人々と出会うようになり松子の知られざる一生について調べ始める。

……教師、風俗嬢、美容師など職を転々とし、そのたびに男に振り回される松子。周りから誤解を受けることが多く次々と災難がふりかかるが、その中でも松子は幸せを掴もうと奮闘していく。

### 監督

## 中島哲也

一九五九年、福岡県生まれ。映画監督、CMディレクター。スローモーションやCG撮影等様々な撮影技術を用いた映像美を得意とし、音楽に合わせてストーリーを展開させた作品が多く見られる。作中に日本のサブカルチャーを多く登場させる。スタッフや出演者から厳しい監督という印象を持たれている。

主な作品は、『下妻物語』『嫌われ松子の一生』『パコと魔法の絵本』『告白』『渇き。』『来る』など。

## ▼「松子」との出会い

本屋でたまたま『嫌われ松子の一生』を手にしたことがきっかけで「松子」と出会う。タイトルのイマドキではない響きが監督にはしっくりときた。松子の生き方のスピード感が心地よく、自身で映画化をしたら面白いのではないかと考えるようになったという。



# 川尻松子の一生

## IV. ソープ嬢時代

昭和 48 年・25 歳（福岡県南新地）

雪乃という源氏名で、ソープ嬢に。努力して、店のトップまで上り詰めるが、時代の波に抗えず、徐々に人気減少。



## IX. 引きこもり時代

平成元年～13年・41～53歳（東京都足立区）  
足立区のアパートで1人、長い引きこもり生活を送る。病院で沢村めぐみと再会し、美容師として再起を図ろうとするが……。



## VIII. 龍時代

昭和 58～63年・35～40歳（東京都赤羽）

銀座で美容師になる。ヤクザとなった元教え子の龍洋一と偶然再会。そして同棲。しかし龍が逮捕される。



平成 13 年 7 月 11 日

53 歳で永眠

## I. 教師時代

昭和 46 年・23 歳（福岡県大野島）

中学校の国語の教師になる。生徒に人気のある先生だったが、修学旅行で不祥事を起こし……。



## II. 八乙女時代

昭和 46 年・23 歳（福岡県南新地）

太宰治好きの作家志望、八乙女徹也と同棲。彼の暴力に耐える日々だったが、ある日突然八乙女が踏切で自殺。

## III. 岡野時代

昭和 47 年・24 歳（福岡県南新地）

八乙女の大学の同期、サラリーマン岡野健夫と不倫。妻にばれ、破局。



## V. 小野寺時代

昭和 49 年・26 歳（滋賀県雄琴）

小野寺保に誘われ、雄琴でソープ嬢に。しかし、同棲中であるヒモ男小野寺の裏切りを知り、彼を殺害してしまう。



## VI. 島津時代

昭和 49 年・26 歳（東京都三鷹）

八乙女が憧れていた太宰の死んだ三鷹へ。そこで出会った理髪店店主島津賢治と同棲。穏やかな未来を夢見たが、すぐに逮捕。

## VII. 刑務所時代

昭和 49～57年・27～34歳

8年間の服役生活。再び島津と暮らすために、美容師の資格を取得する。沢村めぐみと親友になる。



# 松谷とショウコの 井戸端会議



松谷…二十二歳文学部大学生  
好きなジャンル…ホラー・ミステリー  
好きな作品…貴志祐介「黒い家」  
趣味…美術館巡り・ファッション  
最近…新しい髪形を模索中

ショウコ…二十二歳文学部大学生  
好きなジャンル…恋愛・ファンタジー  
好きな作品…有川浩「図書館戦争」  
趣味…猫とお昼寝・タピオカ屋巡り  
最近…うちの猫が相変わらず可愛い

シ…『嫌われ松子の一生』についてどう思った？

松…私は映画の方が好きだったわ。

シ…そうなの？ 私は小説派かなあ……。

松…小説？ 小説のどんな部分が好きなのよ？

シ…んん…。小説だと、松子だけじゃなくて笹を通して読み進めていくことができ、描写も細かいし、感情移入しやすく好き。

松…『松子』は、小説だと「重い」っていう印象が強いじゃない？ でも映画だとミュージカル調になってて非現実感が出るから、重さとか暗さから離れた視点

で観ることができると思うのよ。考え込まずに目と耳で楽しめるし、やっぱり映画の方が好きね。

## ▼コンテンツの魅力について立ち話

シ…映画の方は音楽や色彩が特徴的だったよね。

松…そうね。かなりミュージカル要素が強いわね。歌って踊ってっていうシーンがストーリーの随所に散りばめられているわ。

シ…色彩もビビットで素敵なおとぎ話みたいな印象が強かったかな。



松…松子の人生自体すごく重いから、現実味のない要素を取り入れることで、一歩引いて客観的に松子の人生に向き合えるでしょ？ もし松子の人生をそのまま映像化したとしたら、きつと劇場から出て来る人みんなげっそりしてるはずよ(笑)

シ…ほんと。げっそりした人だけだよ(笑)

松…ただ、小説で松子を見るのはまた違うわよね。

シ…うん、原作には笑える要素がほとんどないしね。も

## ▼キャラクターについて立ち話

シ…映画だと松子のキャラがさらに濃かったよね。特に変顔は小説にはなかったから……(笑)

松…確かに(笑) 中谷さん、かなり振り切っていたわね。

シ…子役の奥ノ矢佳奈ちゃんも中々の変顔だったよ！

松…キャラそれぞれに個性があって、そういうところで小説とはまた違って、目で観て楽しめたよね。

シ…そうね、どのキャラもそれぞれ癖があるから。その中でも、松子というキャラは圧倒的ね。ミュージカル調にしたことでより松子のキャラがたっているわ。映画を観やすくなるためにミュージカル調にしたり、キャラに個性を持たせたり……。とても重要なことだったと思うわ。

シ…うん、そうだね。

松…映画の笹はよく分からない立ち位置だったけど、小説だと割と重要なキャラだったわね。

シ…原作者の山田さんが「私自身は笹の目線で書いていました。



ちろん、松子馬鹿だなあって思うことはあるけど。小説は感情移入しやすいと思っただけど、どうなの？

シ…人によると思うけど、私の場合松子じゃなくて笹に感情移入したんだよね。同年代ってこともあるけどさ、笹が松子の人生を追いかけて、松子の人生が語られるという構造だったから。それに、笹に感情移入することで、馬鹿だと思っただけじゃなく、私だってなるかもしれないっていう恐怖がページをめくるたびに……(笑)

松…まさに、松子おばさん！ って感じなのかしら？

シ…それ(笑)あと、松子の遺骨の音の描写があったよね。「ことり」って。あれ映画にもあったと思うんだけど、小説だと改行されてあの一文字が並べられているの。小説って文字の配置によって切なさとかもの悲しさとかじんわり沁みるところがあるじゃん？

松…私は松子っていう人間自体好きじゃないんだけど、映画だと良い距離感で見れたし、エンターテインメントとしても見応えあったわね。

シ…表現方法はぜんぜん違うけど、映画だったら音楽、動作、色彩。小説だったら言葉とか間の表現だったり。そういうコンテンツの強みをどっちも活かした形になってるって言えるかもね！



最後の裁判のシーンでは、感情があふれてきました「って言ってたぐらいだし、やっぱ笹っていうキャラが小説だとかなり重要になってくるのはそうだと思う。映画だと笹が松子に対する思いを表面に出す裁判のシーンがカットされているのが私としてはちょっと残念かなあ。笹というキャラを通して松子の人生をみるからこそ、物語に感情移入しやすくなっているんだと思う！」

松… そうね。松子の人生って正直言って、自業自得なことばかりで「何やってんのよ……」って思っちゃうのよ。だけど、そうやって笹というキャラを通してこゝとで読みやすくなるのね。

### ▼場所について立ち話

松… 映画と小説の違いについていろいろ話してきたけど、ストーリーにおける印象的な違いって死に場所じゃないかしら？

松… 確か映画は、河原で子どもたちに暴行されて死んで、小説は公園で暴行されて起きたらトイレの中、頑張って家に帰るけど結局息絶えてしまっ、っていう



犬を散歩させる人、ベンチに半裸で寝そべって体を焼いている人までいたわ(笑) スカイツリーも見えたしね。  
(スマホで荒川の写真を見せる)

松… そうそう(笑) だからこそ、スクリーンにいた松子がちゃんと現代を生きて、死んでいったんだなって実感したのよね……

松… 私も松子が鳥津と出会った三鷹に行ってきたんだけど。小説に書かれてるところだけ見て行ったのに、本当に行けちゃってびっくりしたよ。

松… それだけ正確に場所を明記してるってことなのね。世界観のリアリティが増す一つの要素だから。

松… うん、行ったら割と薄暗くて。小説の雰囲気そのものでね。緑豊かで綺麗な道だったから、この道を不安とか悲しさとか色々抱えながら歩いてたんだ。なあって、すんなり松子に寄り添えた気がしたよ。

ストーリーだったね。

松… そう、それってさっきまでの話に繋がるけど、原作通りに映像化すると、リアリティが出すぎるから変更されたんじゃないかと思うの。

松… うん、確かに。それに松子が最後草原に横たわって大の字で空を見上げると、映像としてもすごく綺麗だったな。あのシーン一番好きかも。

松… 星もキレイで、とてもロマンチックだわ。そういうえばこの間、荒川に行ってきたのよ。原作に沿って、北千住駅付近の。映画には出てこなかったけど、近かったからついでに千住旭公園にも寄ってきたわ。

松… え、ほんと？ どうだった？

松… 千住旭公園は小説にしか出てこないから当然なんだけど、荒川は行っても映像の世界はないじゃない？ あくまであの幻想的な映像を見ただ上で、作品を現実にと落とし込むために行ったんだけどね。本当に普通の川。ランニングをする人、



松… 今まで実際の舞台を訪れたことなんてなかったけど、作品を自分に落とし込むためだったり、作品の世界観を体感するためだったり……。実際に訪れるってまた違う視点から作品と向き合えるから、案外良い機会かもしれないわね。

松… それに、良い散歩にもなったし。ねえ、次は一緒に行こうよ！ ほら、レポート溜まってるって言うたでしょ？ 気分転換にタピオカでも飲みながら。

松… ……それは要相談ね(笑)

### ▼参考文献

日本推理作家協会「推理作家協会賞一覧」日本推理作家協会ホームページ [www.mystory.or.jp/](http://www.mystory.or.jp/)、二〇一八年更新(二〇一八年十一月三十日参照)

『嫌われ松子の一生』オフィシャルブック『キネマ旬報社、二〇〇六年』

中島哲也(監督・脚本)『嫌われ松子の一生』二〇〇六年  
中谷美紀『嫌われ松子の一年』ぴあ株式会社、二〇〇六年  
山田宗樹『嫌われ松子の一生(上・下)』幻冬舎、二〇〇四年

# 『嫌われ松子の一生』 文学散歩 MAP



前途多難、  
何処へ行く？

## ＜玉川上水＞



( 太宰治入水自殺の場所 )

## ＜千住旭公園＞



### ①千住旭公園

〒 120-0026

東京都足立区千住旭町 30

### ②荒川土手

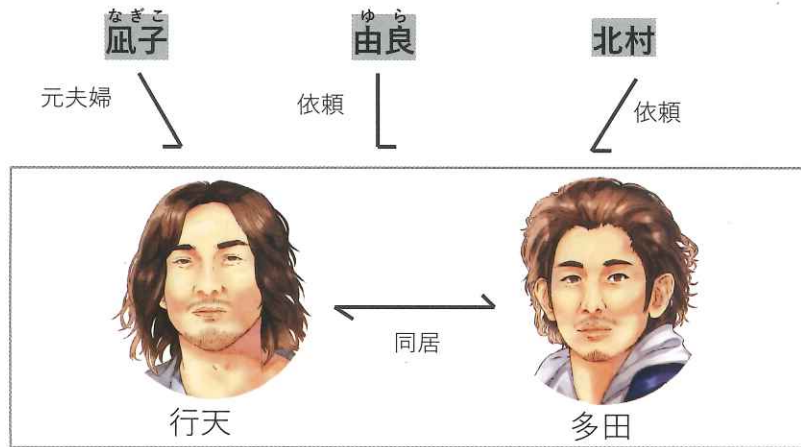
〒 120-0021

東京都足立区日ノ出町

### ③新橋

〒 180-0021

東京都武蔵野市桜堤



親がいないって  
なんてすばらしいだろうと  
思った

帰るぞ、行天

多田の家に居候している。かつて事故で小指を切断してしまい、傷跡が残っている。

要領良く生きていたが今は便利屋を営む。鈍感だが面倒見が良く生真面目な性格。

親から愛情を受けずに育つ。同性愛者のため子供を作れず悩んでいた凧子と結婚し、人工授精に協力するも離婚。行天の親が子を引き取ろうと凧子に迫っていることを知り、全てを終わらせるつもりで実家に行ったが、両親は既に引っ越していた。そこで途方に暮れていた時に多田と出会う。

妻の浮気が判明した直後に妊娠が発覚。自分の子であるか否かに関わらず妻子を愛したが、不注意により子を亡くす。そのことで、妻から自分の子ではないと思っているから見殺しにしたのだと責められるようになり離婚。その後、一人で便利屋を営むことに。

## ●●小説を読もう

作者 三浦しをん  
1976年生まれ。町田市で育つ。2000年に作家デビュー。2006年に『まほろ駅前多田便利軒』を発表し、同年に直木賞を受賞。執筆中のBGMは義太夫節とバンド。高倉健をこよなく愛す。

まほろ市で便利屋で営む多田啓介、そこにチワワをきっかけに高校の同級生・行天春彦が転がり込む。彼らの元にやってくるのは、さまざまな依頼と依頼人、あわや命の危機まで多種多様……。正反対のようでどこか似ている多田と行天。そんな二人の便利屋物語。

●本の森に迷い込む  
高原書店



三浦しをんが働いていた古書店。本・本・本、どこを向いても本！4階建ての店内にあるすべての本の位置を把握していたそうです。さすが三浦しをんですね。

## ●●映画を観よう

監督 大森立嗣

1970年生まれ。2005年に『ゲルマニウムの夜』で初監督を果たす。2011年に『まほろ駅前多田便利軒』の監督を務める一方、俳優としても活躍。『まほろ駅前多田便利軒』では父(磨赤兒)と弟(大森南朋)がともに出演している。

●「まほろっばさ」を作る

映画では、多田と行天が世の中に馴染めていない感じを出すため、様々な工夫がなされています。美術面では、広くて古い便利軒事務所の空間をあえてバランス悪く飾ることで、無駄な空間を演出。衣装に関



する監督からの要望は「お洒落じゃないけど格好よく」。そのため、お洒落に見えすぎないように丈や素材にこだわり、もさっと感を出したそうです。

## ●●多田

理想の幸せ：  
血縁の有無に関わらず、愛し愛され、妻子と幸せにやっていきたい。

血の繋がりが関係なく子を愛していた

不注意で子どもを亡くす

血の繋がりを気にしていたのではと、自分の愛情が信じられなくなる

北村が、生みの親よりも育ての親を選択する

血が繋がらないところでも親子の愛情が成立することを知り、自分の愛は正しいと思う

## ●北村

病院で取り違えられる。生みの親に関する調査を便利屋に依頼。多田にとって、死んでしまった我が子の未来の姿を表す存在であった。

あなたに会わなかったら、俺はまた同じことを繰り返すところだった

## ●継ぎ接ぎの幸福●

この作品の重大な鍵は、ズバリ行天の小指です。

一度断ち切れたものは完全に元通りにはならないけれど、

再び繋ぎ合わさる……

つまり、小指とは「修復」の象徴なのです。

そう考えると、多田と行天も、

理想の幸せから離れているようですが、形を変えた新たな幸せを得ていると言えるのではないのでしょうか。

## ●愛を求めて●

あなたにとって、**幸せとは**どんな形ですか？

多田と行天が描く幸せの根本にあるもの、ひとことで言うとそれは**愛**です。

どこか虚無感を抱えて生きているように見える2人ですが、

それでも彼らは心の奥底で

**本当の愛に基づく理想の幸せ**を求めています。

## ●●行天

理想の幸せ：  
親に愛されることで自分の居場所があると感じたい。

帰る場所もなくいつも一人

多田と暮らすことになる

「帰る」という言葉を多田に使い、自分の居場所を見つけ、多田と暮らすことになる

●由良 大人びた性格の小学生。親に愛されていないと感じている。行天にとって、かつての自分の姿と重なるため見過ごせない存在。

親が最初からいないのと、親に無視されつづけるのと、どっちがましか (由良)  
俺は知りたいんだ (略) 子どもが親を選び直すことができるのかどうかを。(行天)

## ●●もっと詳しく

アダルト・チルドレン…親との関係で何らかのトラウマを負った成人

特徴①見捨てられる不安

居候の仰天が多田にこっそり煙草(たばこ)を買うこと。

特徴②自己評価や自尊心の低さ

俺は知りたいんだ(略)子どもが親を選び直すことができるのかどうかを。(行天)

自分は死んでもよいと思っている行天の態度と発言。

中でも、愛情欲求を自ら断念してきた人には、

・親に放任され育った自己主張をしないタイプ(母親の前での由良)

・暴力を受けて育ち、愛情欲求を暴力や不服従でしか表現できないタイプ(行天)がいる。

## ●町田を歩けば まほろが分かる！

物語の舞台である「まほろ市」。

そこは架空の街ですが、作者である三浦しをんの育った東京都町田市がモチーフになっています。

さらに町田市は映画のロケ地にも。

そこで、私たちは実際に町田市を訪れ、散歩を試みることに。

さあ皆さん、まほろ市と町田市の特徴を見て、散歩した気分になりましょう。

## ●もっと詳しく 団地

1960年～70年代の高度経済成長期に建設が始まる。

### 設計思想

何でもあり、全てがその内部で足りる空間を作ること。

#### ■町田市

日本有数の団地の街。

学校や商店街、老人ホームといった施設が街中に建ち並び、全てが市内だけで事足りる完結した街となっている。

#### ■まほろ市

北西区域に団地がある。まほろ市から出る必要がないほど、なんでもある街として描かれている。

## ●マンションだらけ！



散策中、至る所でマンション群を目にした。

## ●高齢者も安心

特別養護老人ホーム	23 施設
介護付有料老人ホーム	38 施設



## ●まほろ市

まほろ市民はどっちつかずだ。

まほろ市は東京の南西部に、神奈川に突き出すような形で存在する。

まほろ市民は、2つの国に心を引き裂かれた人々なのだ。

外部からの侵入者に苛立たされ、しかし、中心を目指すものの渴望もよく理解できる。

外部からの異物を受けいれながら、閉ざされ続ける楽園。文化と人間が流れつく最果ての場所。

ゆりかごから墓場まで、まほろ市内だけですむようになっている。

## ●まほろ市の特徴●

- ① どっちつかず  
東京都 or 神奈川県
- ② 完結性  
市内に必要なことが全て済む



## ●町田市



買い物もバッチリ駅前には様々なお店が並び、栄えている印象を受けた！

## 東京都だけど神奈川県……？

東京都に属する町田市だが、地図を見ると、神奈川県に属しているような地形。  
さかみはら  
神奈川の相模原市と町田市の境界線は過去に何度も変更されているという。

母校も全て町田市で！

小学校	44 校
中学校	24 校
高校	12 校
大学	9 校

## 本当に東京都……？

町田市を走る神奈川中央交通バス。  
何度も見かけた横浜銀行。





いかがでしたでしょうか？『カラフル』『竹取物語』『嫌われ松子の一生』『まほろ駅前狂騒曲』。4つの作品を原作・映画・舞台と様々な視点からご紹介しました。小説を片手に、映画の場面と照らし合わせながら街を歩き回りました。文学という窓からその街を眺めることにより新しい発見があり、作品の舞台に立って作者や登場人物と対談するような気持ちを味わうことができました。

近現代文学を専攻する16期土屋ゼミに所属する私たちは、半年以上をかけてこの本をまとめました。ほとんどのゼミ生は、3月から本格的に就職活動を始めており、「人生の転機」を迎えています。楽しかった大学生活も終わりが見えてきました。社会人になったら、目まぐるしく変わってゆく環境に戸惑うこともあるかもしれません。そんな時に17人の仲間と作り上げたこの本をこっそり開き、文学散歩を思い出したいです。

この本が文学の世界の新しい扉を開ききっかけとなればとても嬉しいです。何の気なしに歩いていた場所が実はあの小説の舞台だった……なんてこともあるかもしれません。みなさんも本書を片手に文学散歩に出かけてみてはいかがでしょうか？

## 『まほろ駅前多田便利軒』文学散歩MAP



①多田便利軒

〒194-0013

東京都町田市原町田 4-9-16

④芹ヶ谷公園

〒194-0013

東京都町田市原町田 5-16

②仲見世商店街

〒194-0013

東京都町田市原町田 4-5-13

⑤駅裏

東京都町田市

原町田 1丁目周辺

③高原商店

〒194-0022

東京都町田市森野 1-31-17

⑥団地

〒194-0022

東京都町田市森野 1-3

# 制作

監修  
土屋忍

編集長  
廣部みなみ

レイアウト  
島田茉里奈 加地花百

表紙・中表紙デザイン  
稲垣菜生 田中瑞稀

イラスト  
大谷侑香 谷川華帆 望月菜美子

マップ  
玉根光輝

書式統一  
定森夏子 島田茉里奈 田邊唯

校閲  
大友建人 大野秀美 元島麻結 本田恋

『カラフル』  
稲垣菜生 廣部みなみ 本田恋 望月菜美子

『竹取物語』  
大友建人 大野秀美 谷川華帆 元島麻結

『嫌われ松子の一生』  
大谷侑香 定森夏子 島田茉里奈 島田茉里奈

『まほろ駅前多田便利軒』  
加地花百 田中瑞稀 田邊唯 玉根光輝

## 文学散歩

2019年3月11日 発行  
武蔵野大学 文学部 日本文学文化学科  
16期土屋ゼミ  
TEL 042-468-3111